

# 嘱託産業医と事業者が望む産業保健活動 に関する構成概念の実証的検討

新潟産業保健推進センター

研究代表者 相談員 中平 浩人

研究分担者 所 長 興梠 建郎

## ➤ 背 景

- ✓ 安衛法改正などを機に、現行の産業医制度を再評価する動きがある。
- ✓ 現段階での産業保健向上には、現行の産業医を中心とする産業保健管理体制を強化する必要がある。
- ✓ 特に中小規模事業場では、産業医と事業者とが、重視する産業保健活動を共有することが重要である。

## ➤ 目 的

- 産業医が重視する産業保健活動に関する因子を抽出・検討する。
- その活動の構成概念モデルを構築し検証する。
- 事業場規模により、産業医が重視する産業保健活動に差異があるか検討する。
- 今回の結果と先に実施した事業者が重視する産業医業務とを比較する。

## ➤ 研究方法

- 調査対象：県医師会登録日医認定産業医837名  
(H23.9時点)
  - 調査方法：H23.9～10に調査票を送付/郵送で回収
  - 調査内容：産業医が重視する産業保健業務34項目
  - 統計学的分析
    - 探索的因子分析：潜在因子を見出す
    - 信頼性分析：クロンバックの $\alpha$ 信頼性係数
    - 二次因子分析（構造方程式モデリング(SEM)）
      - ：推定値代入法 多母集団同時分析
- IBM SPSS Statistics 19 / Amos18 使用

# ➤ 結 果

表1. 回答状況および回答産業医について

回収数	408	48.7%
有効回答数	407	99.8%
契約形態(回答者のみ)		
専属産業医	37	9.3%
嘱託産業医	269	67.4%
契約なし	93	23.3%
計	399	100.0%
契約事業場従業員数(回答者のみ)		
50人未満	21	6.8%
50~99人	104	33.5%
100~199人	86	27.7%
200~299人	42	13.5%
300人以上	57	18.4%
計	310	100.0%

## 表2 産業医が重視する産業保健活動：探索的因子分析

		大変重要である /重要である	どちらでもない	あまり重要でない /重要でない
<b>Factor 1: 労働衛生教育</b>	( $\alpha$ :0.733)	事業場の数(%)		
経営者・管理者対象の研修実施		161(39.9)	182(45.0)	61(15.1)
従業員対象の研修実施		247(60.8)	125(30.8)	34( 8.4)
<b>Factor 2: メンタルヘルス対策</b>	( $\alpha$ :0.806)			
メンタルヘルス対策の指揮を執る		284(70.3)	102(25.2)	18(4.5)
精神疾患治癒後の職場復帰の指揮を執る		235(57.7)	147(36.1)	25(6.1)
<b>Factor 3: 過重労働対策</b>	( $\alpha$ :0.859)			
過重労働対策として、管理職の労働時間を把握する		294(72.6)	89(22.0)	22( 5.4)
過重労働対策として、従業員の労働時間を把握する		322(79.3)	73(18.0)	11( 2.7)
長時間労働者面接指導、事後措置に係る助言・勧告を行う		333(82.2)	58(14.3)	14( 3.5)
<b>Factor 4: 作業・作業環境管理</b>	( $\alpha$ :0.872)			
有害化学物質等取扱い作業場の管理とその確立に指導助言する		291(72.0)	94(23.3)	19( 4.7)
作業環境測定結果を把握する		294(72.4)	96(23.6)	16( 3.9)
危険作業環境の管理とその確立に指導助言する		278(68.5)	106(26.1)	22( 5.4)
新たな有害性調査、事前評価、使用条件設定を行う		189(46.9)	172(42.7)	42( 10.4)
作業全般の点検、分析、改善検討、改善効果を評価する		180(44.4)	165(40.7)	60( 14.8)

<b>Factor 5: 健康管理</b>	<b>(<math>\alpha</math>:0.669)</b>		
法定健診に加えて、法定外の健康診断も計画する	98(24.3)	204(50.5)	102(25.2)
職場健康診断で自ら診察する。	120(29.9)	173(35.4)	109(27.1)
日常診療を担当し、医療機関へ紹介や社外主治医と連携を図る	186(46.0)	143(35.4)	75(18.6)
<b>Factor 6: 総括管理</b>	<b>(<math>\alpha</math>:0.748)</b>		
労働安全衛生マネジメントシステム導入の指導助言をする	268(67.3)	112(28.1)	18( 4.5)
産業保健活動の方針策定、体制整備、人材確保等に助言する	291(72.2)	82(20.3)	30( 7.4)
毎月職場巡視を行い、職場状況を把握する	276(67.8)	79(19.4)	52(12.8)
(安全)衛生委員会の構成員として出席し意見を述べる	331(81.3)	60(14.7)	16( 3.9)
<b>Factor 7: 産業保健上の判断</b>	<b>(<math>\alpha</math>:0.650)</b>		
事業場の経営状況を把握する	42(35.9)	50(42.7)	25(21.4)
届出・報告確認、査察対応、行政指導勧告への対処	229(56.5)	129(31.9)	47(11.6)
産業保健活動の方針策定、体制整備、人材確保等に助言する	291(72.2)	82(20.3)	30( 7.4)
毎月職場巡視を行い、職場状況を把握する	276(67.8)	79(19.4)	52(12.8)
医療・就業措置、保健指導等の事後処置	323(79.8)	68(16.8)	14( 3.5)
<b>Factor 8: 医療・研究活動</b>	<b>(<math>\alpha</math>:0.373)</b>		
地区医師会・看護協会・学会等へ積極参加	238(59.9)	128(32.2)	31( 7.8)
セカンドオピニオンとしての役割	193(47.5)	160(39.4)	53(13.1)

表3. 潜在因子の相関係数

潜在因子	労働衛生教育	メンタルヘルス対策	過重労働対策	作業・作業環境管理	健康管理	総括管理	産業保健上の判断	医療・研究活動
労働衛生教育	1.000	.379	.353	.447	.330	-.116	.231	.416
メンタルヘルス対策	.379	1.000	.445	.432	.318	-.267	.128	.365
過重労働対策	.353	.445	1.000	.415	.260	-.392	.167	.325
作業・作業環境管理	.447	.432	.415	1.000	.268	-.232	.302	.310
健康管理	.330	.318	.260	.268	1.000	-.148	.223	.284
総括管理	-.116	-.267	-.392	-.232	-.148	1.000	-.119	-.114
産業保健上の判断	.231	.128	.167	.302	.223	-.119	1.000	.118
医療・研究活動	.416	.365	.325	.310	.284	-.114	.118	1.000



表4. 事業場規模別にみた産業医が重視する産業保健活動：  
二次因子分析・多母集団同時分析

パス系数	過重労働 対策	作業・作業 環境対策	総括管理	メンタル ヘルス対策	健康管理	労働衛教育	産業保健上 の判断	医療・ 研究活動
全事業場	0.68	0.70	0.76	0.69	0.61	0.72	0.82	0.68
従業員数								
~99	0.65	0.69	0.75	0.62	0.57	0.68	0.69	0.99*
≥100	0.69	0.74	0.73	0.72	0.62	0.79	0.99*	0.94*

\*n.s.

適合度指標	CMIN/DF	CFI	RMSEA
全事業場	2.37	0.91	0.06
99人以下	1.92	0.84	0.09
100人以上	1.65	0.90	0.06

CMIN/DF:  $\chi^2$ 値/自由度

CFI : Comparative Fit Index(比較適合度指標)

RMSEA : root mean square error of approximation(平均二乗誤差平方根)

# 参照：事業者が重視する産業医業務

## ➤研究方法

- ◆ 母集団: 新潟県内の4労働基準協会に登録の従業員50人以上の935事業場の事業者
- ◆ 標本抽出: 新潟県内4地域ごとに、事業所数と従業員数の構成比を考慮した200事業所
- ◆ 調査方法: H22.7～8に調査票を送付し郵送で回収
- ◆ 調査票: 事業者が重視する産業医業務34項目

## ➤ 結 果 表5. 回答状況および回答事業場について

回収数	117	58.5%
有効回答数	117	100.0%
事業場の規模		
従業員数		
50~99	62	53.0%
≥100	55	47.0%
事業場の職種		
建設業	13	11.1%
製造業	49	41.9%
運輸業	14	12.0%
卸売・小売業	9	7.7%
金融・保険・不動産	6	5.1%
飲食店・宿泊	1	0.9%
医療・福祉	3	2.6%
教育・学習支援	1	0.9%
サービス業	12	10.3%
その他	9	7.7%

表6. 事業場規模別にみた事業者が重視する産業医業務：  
二次因子分析・多母集団同時分析

パス系数	過重労働 対策	作業・作業 環境対策	総括管理	メンタル ヘルス対策	健康管理	労働衛教育	その他	コンプライ アンス
全事業場	0.47	0.68	0.80	0.63	0.72	0.67	0.64	0.66
従業員数								
50～99	0.43	0.55	0.72	0.78	0.86	0.83	0.64	0.94*
≥100	0.55	0.82	0.80	0.29*	0.57	0.50	0.74	0.40

\*n.s.

適合度指標	CMIN/DF	CFI	RMSEA
全事業場	1.68	0.84	0.08
99人以下	1.71	0.73	0.11
100人以上	1.47	0.76	0.09

CMIN/DF:  $\chi^2$ 値/自由度

CFI : Comparative Fit Index(比較適合度指標)

RMSEA : root mean square error of approximation(平均二乗誤差平方根)

## ➤まとめ

1. 産業医が重視する産業保健活動に関して、8因子の構成によるモデルが確認された。
2. 影響の強い順に、「産業保健上の判断」、「総括管理」および「労働衛生教育」であった。
3. 以下、「作業・作業環境管理」、「メンタルヘルス対策」および「医療・研究活動」が続いた。
4. 「過重労働対策」および「健康管理」が下位であった。

5. 事業場規模により産業医が重視する産業保健活動が異なった。
6. 従業員数99人以下では「総括管理」および「産業衛生上の判断」が、100人以上では「労働衛生教育」および「作業・作業環境管理」が、上位であった。
7. 産業医と事業者が重視する産業保健活動は大きく異なった。両者が密に連携して共有を図る必要がある。
8. 横断研究のため、現在比較的充実している活動を重視していない可能性がある。